

令和3年度卒業時アンケート結果の推移

1. 倫理観とプロフェッショナルリズム

全項目の平均値で見ると、「全くそう思う」が2019年度で51.4%、2020年度で63.9%、2021年度で67.4%、「どちらかと言えばそう思う」が2019年度で42.0%、2020年度で30.8%、2021年度で24.5%であった。「全くそう思う」と感じている学生が増加傾向にある。

個別項目で見ると、「1 歯科医師としての職責を理解し、倫理観、責任感を持って行動することができる」、「2 歯科医師法及び関連法規・規範を遵守する」、「4 患者の心理的。社会的要因や社会背景に関心を払い、その立場を尊重する」について「全くそう思う」が最近3年間で著明に増加傾向にある。

2. 歯科医学および関連領域の知識

全項目の平均値で見ると、「全くそう思う」が2019年度で26.4%、2020年度で26.1%、2021年度で34.2%、「どちらかと言えばそう思う」が2019年度で53.1%、2020年度で54.4%、2021年度で43.5%であった。一方で「全くそう思わない」が2019年度で2.9%、2020年度で4.0%、2021年度で7.0%であった。「全くそう思う」が増加傾向であるが「全くそう思わない」も増加傾向にある。

個別項目で見ると、「10 生物の分子基盤、人体の正常な構造と機能を説明できる」、「14 医療安全と感染対策を説明できる」、「疫学と予防を説明できる」について「全くそう思う」が増加傾向にあり、「10 生物の分子基盤、人体の正常な構造と機能を説明できる」、「11 人体の発達、成長、加齢と死を説明できる」については「全くそう思わない」も増加傾向を示した。

3. コミュニケーション

全項目の平均値で見ると、「全くそう思う」が2019年度で51.1%、2020年度で73.7%、2021年度で63.9%であり、「どちらかと言えばそう思う」が2019年度で44.4%、2020年度で22.5%、2021年度で29.1%であった。年度間で変動があるが、「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、最近3年間の傾向は同様と考えられる。

個別項目で見ると、「20 傾聴、共感、肯定的態度で患者・家族と良好な人間関係を築くことができる」および「21 同僚や他の医療従事者の立場を尊重して信頼関係を築き、チーム医療を実践できる」について、「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、いずれの項目も最近3年間の傾向は同様であった。

4. 患者中心の歯科医療の実践

全項目の平均値で見ると、「全くそう思う」が2019年度で31.6%、2020年度で44.2%、2021年度で40.1%であった。「どちらかと言えばそう思う」が2019年度で52.1%、2020年

度で 43.6%、2021 年度で 44.7%であった。年度間で変動があるが、「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、最近 3 年間の傾向は同様と考えられる。個別項目で見ると、「22 患者情報を適切に聴取できる」が最近 3 年間で著明に増加傾向にある。

5. 社会および地域医療貢献

全項目の平均値で見ると、「全くそう思う」が 2019 年度で 34.4%、2020 年度で 29.4%、2021 年度で 44.8%、「どちらかと言えばそう思う」が 2019 年度で 42.8%、2020 年度で 52.5%、2021 年度で 43.0%であった。年度間で変動があるが、「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、最近 3 年間の傾向は同様と考えられる。

個別項目で見ると、「31 社会・地域における歯科医療の現状を理解し、口腔の健康を通じて全身の健康の増進の活動に積極的に参加できる」、「32 在宅歯科医療に必要な知識を理解し、在宅歯科診療に参加できる」、「33 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の果たす役割を理解し、多職種と連携できる」について、「全くそう思う」が最近 3 年間で著明に増加傾向にある。

6. 科学的探究

全項目の平均値で見ると、「全くそう思う」が 2019 年度で 33.4%、2020 年度で 30.5%、2021 年度で 39.6%、「どちらかと言えばそう思う」が 2019 年度で 48.7%、2020 年度で 45.5%、2021 年度で 36.3%であった。年度間で変動があるが、「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、わずかに減少傾向にある。

個別項目で見ると、「35 研究倫理を理解し、実践できる」、「36 歯科医学の問題を認識し、その解決に取り組むことができる」について、「全くそう思う」が最近 3 年間で増加傾向にある。一方で、「37 論文や書籍、検索情報の科学的情報を評価し、論理的・批判的考察によって有用な情報を選別できる」、「39 科学的思考に基づいて、プレゼンテーションや論文作成を行うことが出来る」については、「全くそう思わない」が最近 3 年間で著明に増加傾向にある。

7. グローバルマインド

全項目の平均値で見ると、「全くそう思う」が 2019 年度で 22.4%、2020 年度で 19.7%、2021 年度で 26.7%、「どちらかと言えばそう思う」が 2019 年度で 32.9%、2020 年度で 26.3%、2021 年度で 34.9%、であった。年度間で変動があるが、「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、2020 年度で低下したが 2021 年では増加した。

個別項目で見ると、「40 英語により医学的・歯科医学的情報を収集し、発信できる」および「41 臨床や研究等の場面で、国際的視野に立った英語でのコミュニケーションを実践できる」について、「全くそう思う」が最近 3 年間でわずかに増加傾向にある。

自由記述

2021 年度

42) 歯科学カリキュラムで良かったと感じる点

- 体系的に必要な知識を得ることが出来た。⇒5 人
- 基礎ゼミ、早期体験実習、SIH 道場、国試を利用したディスカッション等。⇒2 人
- 歯科英語で、グローバルに活躍できる人材の重要性に気付いた。⇒3 人
- 臨床実習が充実していた。⇒6 人

43) 歯科学カリキュラムで改善すべきと考える点

- 2 年前期のカリキュラムを改善すべき⇒5 人
- 国家試験対策の充実⇒5 人
- 要点を絞った授業、内容の偏りのない授業、試験後のフィードバックを希望⇒4 人
- 実習や課題の負担が大きく、自主的に勉強できる時間を増やしてほしい⇒5 人

令和3年度歯学科卒業時アンケート

	1. 全くそう思う	2. どちらかと言えば そう思う	3. どちらかと言えば そう思わない	4. 全く思わない
1. 倫理観とプロフェッショナリズム				
1) 歯科医師としての職責を理解し、倫理観、責任感を持って行動することができる。	74.4%	23.3%	0.0%	2.3%
2) 歯科医師法および関連法規・規範を遵守する。	81.4%	16.3%	0.0%	2.3%
3) 人間の多様性に配慮し、他者の尊厳を尊重し、利他的、誠実、正直に行動をとることができる。	72.5%	17.5%	10.0%	0.0%
4) 患者の心理的、社会的要因や社会背景に関心を払い、その立場を尊重する。	83.7%	11.6%	2.3%	2.3%
5) 自己の知識、技能、態度を恒常的に評価し、自己主導型学習により、常に自己の向上を図ることができる。	60.5%	30.2%	4.7%	4.7%
6) 専門職との多職種連携が実践できる。	53.3%	27.9%	11.6%	7.0%
7) 同僚、後輩、チーム構成員に対して助言、指導ができる。	53.5%	34.9%	9.3%	2.3%
8) 生涯を通じて、新しい知識や技術を学ぶ準備ができている。	62.8%	30.2%	4.7%	2.3%
9) 医療の質について、常に振り返り、その改善を図ることができる	65.1%	27.9%	4.7%	2.3%
2. 歯科医学および関連領域の知識				
1 0) 生物の分子基盤、人体の正常な構造と機能を説明できる。	34.9%	41.9%	14.0%	9.3%
1 1) 人体の発達、成長、加齢と死を説明できる。	32.6%	55.8%	4.7%	7.0%
1 2) 疾病の機序と病態を説明できる。	30.2%	48.8%	14.0%	7.0%
1 3) 診断と治療を説明できる。	34.9%	55.8%	2.3%	7.0%
1 4) 医療安全と感染対策を説明できる。	46.5%	41.9%	4.7%	7.0%
1 5) 疫学と予防を説明できる。	37.2%	37.2%	20.9%	4.7%
1 6) 保健、医療、福祉、介護に関する制度を説明できる。	25.6%	34.9%	32.6%	7.0%
1 7) 医療経済、医療政策、保険診療を説明できる。	25.6%	30.2%	32.6%	11.6%
1 8) 歯科医療における材料と器械・器具の性質と使用法を説明できる。	34.9%	46.5%	14.0%	4.7%
1 9) 診療の基本、口腔・顎・顔面領域の常態と疾患を説明できる。	39.5%	41.9%	14.0%	4.7%
3. コミュニケーション				
2 0) 傾聴、共感、肯定的態度で患者・家族と良好な人間関係を築くことができる。	60.5%	32.6%	2.3%	4.7%
2 1) 同僚や他の医療従事者の立場を尊重して信頼関係を築き、チーム医療を実践できる。	67.4%	25.6%	4.7%	2.3%
4. 患者中心の歯科医療の実践				
2 2) 患者情報を適切に聴取できる。	62.8%	34.9%	0.0%	2.3%
2 3) 治療に必要な検査結果の解釈ができる。	48.8%	39.5%	7.0%	4.7%
2 4) 口腔・顎・顔面領域にとどまらず、基本的な身体診察・臨床手技や心肺蘇生等の救急処置が適切にできる。	32.6%	48.8%	11.6%	7.0%
2 5) 臨床推論により、疾患の診断ができる。	32.6%	60.5%	2.3%	4.7%
2 6) 高頻度な疾患の治療計画の立案ができる。	37.2%	53.3%	4.7%	4.7%
2 7) 適切な診療記録等の文書の作成、管理を行うことができる。	32.6%	39.5%	23.3%	4.7%
2 8) 患者の権利を理解し、病状説明・患者教育を実践できる。	46.5%	39.5%	7.0%	7.0%
2 9) 科学的根拠に基づく安心・安全な歯科医療を実践できる。	41.9%	48.8%	4.7%	4.7%
3 0) 保険診療制度を理解し、歯科診療を行うことができる。	25.6%	37.2%	27.9%	9.3%
5. 社会および地域医療貢献				
3 1) 社会・地域における歯科医療の現状を理解し、口腔の健康を通じて全身の健康の増進の活動に積極的に参加できる。	55.8%	37.2%	4.7%	2.3%
3 2) 在宅歯科医療に必要な知識を理解し、在宅歯科診療に参加できる。	44.2%	37.2%	11.6%	7.0%
3 3) 地域包括ケアシステムにおける歯科医師の果たす役割を理解し、多職種と連携できる。	37.2%	48.8%	9.3%	4.7%
3 4) 災害時における歯科医師の役割を説明できる。	41.9%	48.8%	7.0%	2.3%
6. 科学的探求				
3 5) 研究倫理を理解し、実践できる。	41.9%	34.9%	16.3%	7.0%
3 6) 歯科医学の問題を認識し、その解決に取り組むことができる。	51.2%	39.5%	7.0%	2.3%
3 7) 論文や書籍、検索情報等の科学的情報を評価し、論理的・批判的考察によって有用な情報を選別できる。	37.2%	34.9%	18.6%	9.3%
3 8) 研究の基礎となる科学的理論や方法論を理解できる。	37.2%	34.9%	18.6%	9.3%
3 9) 科学的考察に基づいて、プレゼンテーションや論文作成を行うことができる。	30.2%	37.2%	16.3%	16.3%
7. グローバルマインド				
4 0) 英語により医学的・歯科医学的情報を収集し、発信できる。	27.9%	34.9%	20.9%	16.3%
4 1) 臨床や研究等の場面で、国際的視野に立った英語でのコミュニケーションを実践できる。	25.6%	34.9%	18.9%	20.9%

令和3年度歯学科卒業時アンケート

	1. 全くそう思う	2. どちらかと言えば そう思う	3. どちらかと言えば そう思わない	4. 全くそう思わない
1) 歯科医師としての職責を理解し、倫理観、責任感を持って行動することができる。	32	10	0	1
2) 歯科医師法および関連法規・規範を遵守する。	35	7	0	1
3) 人間の多様性に配慮し、他者の尊厳を尊重し、利他的、誠実、正直に行動をとることができる。	29	7	4	0
4) 患者の心理的、社会的要因や社会背景に関心を払い、その立場を尊重する。	36	5	1	1
5) 自己の知識、技能、態度を恒常的に評価し、自己主導型学習により、常に自己の向上を図ることができる。	26	13	2	2
6) 専門職との多職種連携が実践できる。	23	12	5	3
7) 同僚、後輩、チーム構成員に対して助言、指導ができる。	23	15	4	1
8) 生涯を通じて、新しい知識や技術を学ぶ準備ができています。	27	13	2	1
9) 医療の質について、常に振り返り、その改善を図ることができる	28	12	2	1
1. 倫理観とプロフェッショナリズム(まとめ)	67.4%	24.5%	5.2%	2.9%
10) 生物の分子基盤、人体の正常な構造と機能を説明できる。	15	18	6	4
11) 人体の発達、成長、加齢と死を説明できる。	14	24	2	3
12) 疾病の機序と病態を説明できる。	13	21	6	3
13) 診断と治療を説明できる。	15	24	1	3
14) 医療安全と感染対策を説明できる。	20	18	2	3
15) 疫学と予防を説明できる。	16	16	9	2
16) 保健、医療、福祉、介護に関する制度を説明できる。	11	15	14	3
17) 医療経済、医療政策、保険診療を説明できる。	11	13	14	5
18) 歯科医療における材料と器械・器具の性質と使用法を説明できる。	15	20	6	2
19) 診療の基本、口腔・顎・顔面領域の常態と疾患を説明できる。	17	18	6	2
2. 歯科医学および関連領域の知識(まとめ)	34.2%	43.5%	15.3%	7.0%
20) 傾聴、共感、肯定的態度で患者・家族と良好な人間関係を築くことができる。	26	14	1	2
21) 同僚や他の医療従事者の立場を尊重して信頼関係を築き、チーム医療を実践できる。	29	11	2	1
3. コミュニケーション(まとめ)	64.0%	29.1%	3.5%	3.5%
22) 患者情報を適切に聴取できる。	27	15	0	1
23) 治療に必要な検査結果の解釈ができる。	21	17	3	2
24) 口腔・顎・顔面領域にとどまらず、基本的な身体診察・臨床手技や心肺蘇生等の救急処置が適切にできる。	14	21	5	3
25) 臨床推論により、疾患の診断ができる。	14	26	1	2
26) 高頻度な疾患の治療計画の立案ができる。	16	23	2	2
27) 適切な診療記録等の文書の作成、管理を行うことができる。	14	17	10	2
28) 患者の権利を理解し、病状説明・患者教育を実践できる。	20	17	3	3
29) 科学的根拠に基づく安心・安全な歯科医療を実践できる。	18	21	2	2
30) 保険診療制度を理解し、歯科診療を行うことができる。	11	16	12	4
4. 患者中心の歯科医療の実践(まとめ)	40.1%	44.7%	9.8%	5.4%
31) 社会・地域における歯科医療の現状を理解し、口腔の健康を通じて全身の健康の増進の活動に積極的に参加できる。	24	16	2	1
32) 在宅歯科医療に必要な知識を理解し、在宅歯科診療に参加できる。	19	16	5	3
33) 地域包括ケアシステムにおける歯科医師の果たす役割を理解し、多職種と連携できる。	16	21	4	2
34) 災害時における歯科医師の役割を説明できる。	18	21	3	1
5. 社会および地域医療貢献(まとめ)	44.8%	43.0%	8.1%	4.1%
35) 研究倫理を理解し、実践できる。	18	15	7	3
36) 歯科医学の問題を認識し、その解決に取り組むことができる。	22	17	3	1
37) 論文や書籍、検索情報等の科学的情報を評価し、論理的・批判的考察によって有用な情報を選別できる。	16	15	8	4
38) 研究の基礎となる科学的理論や方法論を理解できる。	16	15	8	4
39) 科学的考察に基づいて、プレゼンテーションや論文作成を行うことができる。	13	16	7	7
6. 科学的探求(まとめ)	39.5%	36.3%	15.3%	8.8%
40) 英語により医学的・歯科医学的情報を収集し、発信できる。	12	15	9	7
41) 臨床や研究等の場面で、国際的視野に立った英語でのコミュニケーションを実践できる	11	15	8	9
7. グローバルマインド(まとめ)	26.7%	34.9%	19.8%	18.6%

令和3年度歯学科卒業時アンケート

	1. 全くそう思う	2. どちらかと言えば そう思う	3. どちらかと言えば そう思わない	4. 全くそう思わない
1) 歯科医師としての職責を理解し、倫理観、責任感を持って行動することができる。	32	10	0	1
2) 歯科医師法および関連法規・規範を遵守する。	35	7	0	1
3) 人間の多様性に配慮し、他者の尊厳を尊重し、利他的、誠実、正直に行動をとることができる。	29	7	4	0
4) 患者の心理的、社会的要因や社会背景に関心を払い、その立場を尊重する。	36	5	1	1
5) 自己の知識、技能、態度を恒常的に評価し、自己主導型学習により、常に自己の向上を図ることができる。	26	13	2	2
6) 専門職との多職種連携が実践できる。	23	12	5	3
7) 同僚、後輩、チーム構成員に対して助言、指導ができる。	23	15	4	1
8) 生涯を通じて、新しい知識や技術を学ぶ準備ができています。	27	13	2	1
9) 医療の質について、常に振り返り、その改善を図ることができる	28	12	2	1
1. 倫理観とプロフェッショナリズム(まとめ)	67.4%	24.5%	5.2%	2.9%
1 0) 生物の分子基盤、人体の正常な構造と機能を説明できる。	15	18	6	4
1 1) 人体の発達、成長、加齢と死を説明できる。	14	24	2	3
1 2) 疾病の機序と病態を説明できる。	13	21	6	3
1 3) 診断と治療を説明できる。	15	24	1	3
1 4) 医療安全と感染対策を説明できる。	20	18	2	3
1 5) 疫学と予防を説明できる。	16	16	9	2
1 6) 保健、医療、福祉、介護に関する制度を説明できる。	11	15	14	3
1 7) 医療経済、医療政策、保険診療を説明できる。	11	13	14	5
1 8) 歯科医療における材料と器械・器具の性質と使用法を説明できる。	15	20	6	2
1 9) 診療の基本、口腔・顎・顔面領域の常態と疾患を説明できる。	17	18	6	2
2. 歯科医学および関連領域の知識(まとめ)	34.2%	43.5%	15.3%	7.0%
2 0) 傾聴、共感、肯定的態度で患者・家族と良好な人間関係を築くことができる。	26	14	1	2
2 1) 同僚や他の医療従事者の立場を尊重して信頼関係を築き、チーム医療を実践できる。	29	11	2	1
3. コミュニケーション(まとめ)	63.9%	29.1%	3.5%	3.5%
2 2) 患者情報を適切に聴取できる。	27	15	0	1
2 3) 治療に必要な検査結果の解釈ができる。	21	17	3	2
2 4) 口腔・顎・顔面領域にとどまらず、基本的な身体診察・臨床手技や心肺蘇生等の救急処置が適切にできる。	14	21	5	3
2 5) 臨床推論により、疾患の診断ができる。	14	26	1	2
2 6) 高頻度な疾患の治療計画の立案ができる。	16	23	2	2
2 7) 適切な診療記録等の文書の作成、管理を行うことができる。	14	17	10	2
2 8) 患者の権利を理解し、病状説明・患者教育を実践できる。	20	17	3	3
2 9) 科学的根拠に基づく安心・安全な歯科医療を実践できる。	18	21	2	2
3 0) 保険診療制度を理解し、歯科診療を行うことができる。	11	16	12	4
4. 患者中心の歯科医療の実践(まとめ)	40.1%	44.7%	9.8%	5.4%
3 1) 社会・地域における歯科医療の現状を理解し、口腔の健康を通じて全身の健康の増進の活動に積極的に参加できる。	24	16	2	1
3 2) 在宅歯科医療に必要な知識を理解し、在宅歯科診療に参加できる。	19	16	5	3
3 3) 地域包括ケアシステムにおける歯科医師の果たす役割を理解し、多職種と連携できる。	16	21	4	2
3 4) 災害時における歯科医師の役割を説明できる。	18	21	3	1
5. 社会および地域医療貢献(まとめ)	44.8%	43.0%	8.1%	4.1%
3 5) 研究倫理を理解し、実践できる。	18	15	7	3
3 6) 歯科医学の問題を認識し、その解決に取り組むことができる。	22	17	3	1
3 7) 論文や書籍、検索情報等の科学的情報を評価し、論理的・批判的考察によって有用な情報を選別できる。	16	15	8	4
3 8) 研究の基礎となる科学的理論や方法論を理解できる。	16	15	8	4
3 9) 科学的考察に基づいて、プレゼンテーションや論文作成を行うことができる。	13	16	7	7
6. 科学的探求(まとめ)	39.6%	36.3%	15.3%	8.8%
4 0) 英語により医学的・歯科医学的情報を収集し、発信できる。	12	15	9	7
4 1) 臨床や研究等の場面で、国際的視野に立った英語でのコミュニケーションを実践できる	11	15	8	9
7. グローバルマインド(まとめ)	26.7%	34.9%	19.8%	18.6%

令和3年度 歯学科卒業時アンケート

	1. 全くそう思う	2. どちらかと言えば そう思う	3. どちらかと言えば そう思わない	4. 全くそう思わない
1. 倫理観とプロフェッショナリズム(まとめ)	67.4%	24.5%	5.2%	2.9%
2. 歯科医学および関連領域の知識(まとめ)	34.2%	43.5%	15.3%	7.0%
3. コミュニケーション(まとめ)	63.9%	29.1%	3.5%	3.5%
4. 患者中心の歯科医療の実践(まとめ)	40.1%	44.7%	9.8%	5.4%
5. 社会および地域医療貢献(まとめ)	44.8%	43.0%	8.1%	4.1%
6. 科学的探求(まとめ)	39.6%	36.3%	15.3%	8.8%
7. グローバルマインド(まとめ)	26.7%	34.9%	19.8%	18.6%

